

1月園だより

2018年度 年主題「イエス様とともに生きる～愛の交わりの中で」

0・1・2歳児12月主題 「じっくりと」

月のねがい

- ◎保育者と一緒に神さまに祈る
- ◎好きな遊びを楽しむ
- ◎まめに換気をし、外気に触れる機会をもつ
- ◎日々の生活の中で祈ろうとする
- ◎伝承遊びにも親しみ、よく見てかかわって楽しむ

3・4・5歳児1月主題 「夢中になる」

月のねがい

- ◎神さまの守りを願い、共に祈りながら過ごす
- ◎好きな遊びに深く関わり、心ゆくまで楽しみ、自分なりに納得したりコツをつかんだりする
- ◎健康に過ごすために必要な身の回りの事を、自分から行うようになる

今年も宜しく
お願い致します。



新しい年がスタートしました！

あけましておめでとうございます。お正月はゆっくりとお過ごしてはいかがでしょうか？子どもたちからお休みの間のお話を聞くのが楽しみです。

私は、園長から勧められた冊子をやっとゆっくり読むことができました。その内容は、スマホ子育てについてでした。

・移動で大人しくして欲しい時、家事で手が離せない時など、よくないと思いつつもスマホを見せている実態が多くあること。

・スマホなどのメディア漬けになることで、相手の気持ちに気づくなどの脳の機能が壊れていくこと

・スマホやタブレットを見たがったり、取り上げられ泣くことはスマホに依存しているサインだということ。

どれも2歳の子を持つ母親としてドキッとすること内容でした。自分自身にも、気がつけばゲームもケータイもパソコンも身近にあって、スマホも日常的に触っていたからです。

このことを考えていたら、ある絵本を思い出しました。それは「かんたろうシリーズののぶみさんの絵本「ママのスマホになりたい」です。この絵本は、シンガポールのある小学生が書いた作文が元になっています。その少年が学校から「親のことに作文を書いてきなさい」と言われて書いたのが、『スマホになりたい』というタイトルの作文だったそう。「ママがスマホばかり見ているから、僕はスマホになりたい」と…。

子どもが「ねぇ見て！」「聞いて！」と言ってきた時に、スマホに夢中になっていたら…と考えると、胸が痛くなりました。そして、スマホよりも可愛い我が子と向き合う時間の大切さをじっくり考えることができました。自分自身スマホを触る時間を減らそうと思っています！皆さんも是非この絵本をご覧ください。スマホ子育てについて考えていただくきっかけになれば幸いです。

さあ3学期が始まりました。進級、進学に向けて子どもたちがぐーんと伸びる時期です。できることもきっとたくさん増えることでしょう。その成長を保護者の方々、先生たち、お友だちみなで喜ぶことができたなら嬉しいです。3学期もどうぞよろしくお願ひ致します。

大河



今月の聖句 「神は、喜んで与える人を愛して下さるのです。」

Ⅱ コリント9:7

新年のお慶びを申し上げます。あわせて、子育て中の皆様の上に神様の祝福とご加護がありますようにお祈りいたします。

「一年の計は元旦にあり」とは昔からの言い伝えであり、今日なお、真理であると思います。一年の計を建てるにあたり、重要なことは何を基準に立てるかです。冒頭のことばはその答えを示していると思います。

人の世は「共生社会」、「共同社会」、「協働社会」、「共助社会」です。つまり、「分かちあい」によって生かされています。それぞれの得意分野を提供することによってお互いに助け合っています。神は一人ひとりに特技を賜物として与えて下さり、これを他者のために与えることを望んでいます。人は長じてはその職の専門性を通して分かち合いをしています。聖書使徒言行録のなかにも「与えるは受けるより幸い」とあります。

自分の職が他人のために役立つことに自信をもち、「喜んで与え合う」ことを年頭の計としたいものです。

前理事長 池田公栄

1月の行事予定

8日(火)	3学期始園式(1号:午前保育)
9日(水)	1月生まれ誕生会 弁当日、役員会(PM)
23日(水)	おゆうぎ会予行 ※お弁当

退職のお知らせ

職員の川崎如洋が1月末日をもって退職致します。皆様には大変お世話になりました。今までのご交誼に心より感謝申し上げます。

おゆうぎ会



2月の行事予定

2日(土)	おゆうぎ会
4日(月)	1号振替休日(2・3号希望者)
13日(水)	2・3月誕生会
19日(火)	冬の一日遠足 ※弁当日
21日(木)	シオンの仲間大会
27日(水)	参観日(たんぼぼ・あじさい)
28日(木)	参観日(こすもす・すみれ)

2・3号認定児 新規入園申込受付期間 1/28(月)～2/1(金)

定員に限りがあります。お早めに市福祉事務所へお申込み下さい！
必要書類は園にもございます。

持久走大会



クリスマス☆バイキング



自己陶冶に努める

愛着の形成 ～人としての基礎作り～

私たちの住まいは愛着あるものでいっぱいです。肌触りの良いタオル、着心地の良い衣類、大切な人からの贈物、人目惚れして買った○○など、愛着あるものに触れるだけで心満たされる思いがします。この「愛着」は私たちが本能的に生まれ持っている「愛」に関する力です。生まれたばかりの赤ちゃんは養育者との愛着関係を築こうと一生懸命です。可愛い笑顔や指を握り返すなどの愛おしい反応で大人の愛情を受け取るべく働きかけています。養育してくれる大人との間に結ぶ愛情の絆を深めようと、情緒的な結びつきを深め、心と身体の安心と安全を確保し、本能的な生きる知恵を習得します。「愛着」は生まれて最初の人間としての学びであると同時に、乳幼児期の愛着関係がその人の基礎となる土台になります。その為しっかりと愛着を形成することが今後の子どもの人生のためにも重要で大切なことなのです。子どもは甘えなど生まれ持った愛着行動をたくさん発信します。それに対して養育者から愛情のこもった関わりをたくさんしてもらおうと「安心・安全」を確認し愛着関係を築いていきます。

愛着対象の人との嬉しく楽しい関わりを通して基本的な信頼感「他者への信頼感」と「自己への信頼感」が身につきます。これは人を信じる力、人を愛する力、自分のことを信じて挑戦する力の礎となり社会性豊かに成長するための力となります。また愛着対象の相手と「自分の欲求を伝える」「相手の欲求を受け入れる」というやりとりを重ねる中で自分が求めていること・感じていることを表現することの楽しさと難

しさ、相手の求めていること・感じていることを知ることの大切さを学び、情緒的な関わりが持てるように成長します。

更に、愛着関係が築かれると「どんな自分でも受け入れてもらえる」「何か辛いことや失敗したことがあっても、そこに帰れば励まし慰められる」という絶対的な安心感を持つことができます。どんな自分でも受け入れてもらえると感じられるとどんな自分でも素直に表現することができるようになります。また新たな挑戦をする際に感じた不安や恐怖、心理的・身体的な苦痛を愛着対象の基に戻って癒すことができるので好奇心に対する積極性やストレスへの耐性などが身についていきます。こうして自分に自信を持って行動したり、人を信じて行動したり、相手の価値観や考え方を理解し共感したり、自分を律する力がついたりして、自己肯定感が高まり社会の中で上手に自己表現する力を培っていくのです。

乳幼児期の愛着の形成に難しい行動はありません。スキンシップをたくさんし、応答的な対応と共感的な対応をしていきましょう。例えば授乳やオムツ変えの時にスキンシップをしながらたくさん話しかけたり、子供の欲求を敏感に感じ取って対応したり、喃語や言葉が出るようになったら同じように真似て会話したり、子どもがしていることや養育者がしていることを実況中継のように語って聞かせるなど「温かい言葉のシャワー」をたくさん浴びせませう。

この時のコツは「歌うように話しかける」です。人生で最も大切で最も幸福感を与えてくれる「愛着」。親も子も、幸せになれる大切な絆です。

木口屋

新年明けましておめでとうございます。皆様ご健勝の内に、二〇一九年(平成三一年)をお迎えにいられたこと存じます。本年も、皆様にとつて希望に満ちた素晴らしい年でありませう。心からお祈りいたします。

いよいよ平成の時代もあと四ヶ月になりました。昭和が終わり平成となつて、あれから三十年も経つたとは、あまり実感がありません。新しい元号が何になるのかも気になります。私たちが取り巻く国内外の諸問題こそ、とても気掛かりです。さて、なんと今年も消費増税予定の年です。それに併せて、幼児教育・保育の無償化が十月から実施となります。子育て世代の負担軽減については喜ばしいことですが、三歳児以上の完全無償化が現実になれば、必要性の薄い家庭まで「預けねば損」で、長時間保育に向かいかねません。全国的な人材不足や教育・保育の質をどう改善・担保していくのかが大いに問われます。子育て世代の賢い選択を願うばかりです。

今はあまり使われなくなった言葉に「陶冶」(とうや)があります。陶器の陶に冶金の冶で、土を練り焼いて陶器を造り、鉄を鍛えて鉄器を造るといふ言葉です。「陶」は、人を教へ導く、「冶」は立派なものに仕上げることの意もあり、辞書には「生まれついた性質や才能を鍛えて練り上げること」とあります。簡単に言えば「人間形成」です。教育とほぼ同義ですが、型にはめる、指導者の意のままに教育するといった意味合いではないのです。スイスの思想家ペスタロッチは「生活が陶冶する」という言葉を残しています。「生活が陶冶する」とは、生活そのものが人間を発達させるということを意味します。当たり前のことですが、まず家庭生活の中で教育が行われ、徐々に広がっていく生活範囲や人間関係、社会生活等、生活そのものが人間を成長させると述べています。私たちに求められるのは、一人一人に与えられた能力や性質を引き出し、個々に応じて適正に育むこと。人として大切な人格を形成するための環境を整えることではないかと思ひます。何か特別なことが出来ることより、遊びや保育の中で、我を忘れ探求し続ける子どもの姿こそ、尊く輝いて見えます。幼児期における人格の陶冶を基に、いざ自分の進むべき道をしっかりと見つけ、その中で自身を磨き上げ、誰のものでもない自分の人生を完結できたとすれば、まさに「人生で必要な知恵はすべて幼稚園の庭で学んだ」の言葉のとおりですね。

三学期は、年長児にとつても園生活最後の学期です。幼児教育の仕上げの時でもあります。それぞれの子どもたちにとつて、思い出深い魅力いっぱいの日々になるよう努めてまいります。保護者の方にも行事等でご協力をお願いすることになります。本年も宜しくお願ひいたします。

園長